海外出張報告

「アセアン諸国における農業の多面的機能の計量的調査事業」の指導および調査

生物環境安全部植生研究グループ長　　小川　恭男

農林水産省の大臣官房国際部が所管するアセアン拠出金事業として、「アセアン諸国に農業の多面的機能を計量的に評価するための手法を普及する事業」が展開されています。この事業の目的は、農業が産業としてばかりでなく、国土の保全や自国文化の基盤形成を図る上でも重要な役割を果たしていることについて、アセアン諸国内で理解を深めようというものです。また、アセアン諸国におけるこうした理解は、世界貿易交渉の農業分野における協議においても、有用な知識となるからです。

この事業は、2003 年から第 2 フェーズにはいり、現在では、第 1 フェーズにおけるアセアン諸国からの事業報告があがってきています。農業の多面的機能を、環境的機能、社会的機能、食料安全保障機能、経済的機能、文化的機能の 5 項目で整理し、それぞれの計量的評価に取り組んだ成果の報告ですが、不慣れな点が多く、戸惑いがあるようです。そこで、より良い事業となるために、現地で調査方法や取りまとめ方法を指導するためのフォローアップが必要となります。今回の出張（2004 年 1 月）では、それを目的として、マレーシアとブルネイを訪問しました。

マレーシアでは、農業局で第 1 フェーズの成果と今後の調査の進め方について論議した後、ケランタン（Kelantan）州の水田地帯に設けた第 2 フェーズの調査地（巻頭の写真を参照）を訪問しました。約 200ha の調査地では、水稲の後作としてトウモロコシやスイカ等を作付けするとともに、ロウガン（龍眼）フルーツ園、ナマズ養殖池および家庭菜園などを結合した多様な複合生産システム（Integrated production system）について取り組んでおり、食料安全保障機能を中心として多面的機能の計量評価を行っています。訪問時には、関係農家と農業指導者が多数参加し、和やかな会合がもたれました（写真 1）。

写真１　アセアン拠出金事業のマレーシア調査地における懇談風景

写真２　ブルネイ調査地における道路沿いの開墾水田（中央は炭化した切り株）

ブルネイでは、農業局での論議の後に、テンブロン（Temburong）地区の調査地を訪問しました。そこは、道路沿いの森林域に開墾した水田で、道路建設とともに農家が入植し、農家自身が農地造成（伐採・火入れ・耕起・整地）しました（写真 2）。ブルネイは国土面積が 5,800km^2（三重県と同じ）の小さな国で、水田面積も 200ha しかありません。また、ほとんどの農産物も輸入に頼っている国です。調査地では、農業者人口の年次間変動がみられ、都市就業者の変動を緩和する農村の緩衝機能がうかがわれます。

おわりに、アセアン諸国がこの事業を通じて日本との連携協力を益々深め、持続的な発展をとげることを祈念します。